編集後記・Editorials

魚類学雑誌 68(1):80–80
2021 年 4 月 25 日発行

68 巻 1 号をお届けいたします．2020 年度（学会年度は 8 月 –7 月）の前半も日本中・世界中で新型コロナウイルス（COVID-19）との対峙が続いています．次号では，年会の開催報告が無事になされること，未来に向けた前向きなコメントが残せることを切に願っています．

さて，昨年 10 月 31 日 –11 月 1 日にかけて，初めてオンラインを活用した魚類学会の研究集会〔2020 年度日本魚類学会年会（ウェブ大会）：The 54th Annual Meeting of the Ichthyological Society of Japan, 2020 (Web Meeting)〕が実施されました．本年会に関する詳細なレポートは実行委員会による会員通信記事をご覧ください．会期中（11 月 1 日午後）には編集委員会企画：「会員と一緒に考える！学会誌のあり方フォーラム」の場が設けられ，多くの会員の皆様にご参加いただきました．編集委員会を代表しまして，この場をお借りして御礼申し上げます．頂戴しました数多くの会員意見を踏まえ，編集委員会では改革案が少しずつ練られています．次号ではその一部をお知らせさせていただく予定です．

54 巻 2 号から 65 巻 2 号にかけて「シリーズ：日本の希少魚類の現状と課題」のタイトルで様々な分野の研究者による解説記事が掲載されましたが，今号から装いを新たにして「シリーズ：地域の環境保全」が始まりました．第 1 回はゼニタナゴの保護活動に関しての解説と現状などが詳細に記されています．本シリーズの連載も当面続く予定ですので，毎号の出版をお楽しみにしていてください．

編集委員会（和文誌）からのお願いです．魚類学雑誌では，68 巻から各号あたりの印刷ページ数を調整することになりました．投稿数の大幅増加によってボリュームある雑誌へと目覚ましい変革を遂げた本誌ですが，それに伴い，経費が大幅に赤字となりました（学会 HP・会員専用ページで公表されている会員総会議事録をご確認ください）．健全な学会運営には，健全な予算管理が必須となります．これを鑑み，印刷締め切りに間に合った論文・記事は全て盛り込むとした従前の編集形式を改め，スケジュールに加えて出版経費も参照することにいたしました．これにより，掲載巻・号が不確定な状態で受理通知をお伝えする場合や，公表年（＝ J-STAGE 早期公開日）と発行年との間に大きなタイムラグが生じる可能性があります．ご理解賜れますようお願いいたします．

最後に，今号の編集過程で，受理から早期公開までの日数が予定よりも大幅に遅れた論文がありました．校正作業中に発生した和文誌主任の不手際によるものです．著者の皆様には深くお詫び申し上げます．

（田城文人）